

大自然の法則

【相対の相の法則】

一切の事物現象には常に相対する相を具有する。
一方の相の生滅は同時に他の相対する姿の生滅となる。
表と裏、右と左、愛と憎、生と死のように表を生じた時には同時に裏を生じ、その表を滅した時には同時に裏を滅する。

相対は心の状態にも生じる。

【相対物の同時存在】

宇宙間には相対する異なった事物現象が同時に存在し、自然の運営の安全が保持されている。

例えば空気中に火を燃やす酸素に対し、火の燃焼を妨げる窒素が同時存在し、爆発を防ぎ必要程度の燃焼を保っている。

また酸素を吸収して炭素ガスを排出する動物に対し、炭素ガスを吸収して酸素を排出する植物があり生物の生命の永遠持続を保っている。

このように相反する異なった性能のものが同時に存在することによって大自然の運営は安定し永続する。

【事物の存在状態と相乗、相引、相反作用の法則】

常に連の中の内であり、孤の個として存在できない。

相乗 互いに能き（はたらき）合う力。

相引 互いに融け合い引き合う力。

相反 互いに排除、牽制し合い離し合う力。

相乗、相引、相反の力が均衡し作用し合い、能き合っている時は安定しているもので、この均衡が崩れた時に、激動、変化する。

【事物の分の法則】

一切の事物は、それぞれ大自然より分け与えられた天賦の使命により形状、性能、力量に差別があり、その使命がある故に存在価値を有している。

事物は一律平等ではなく、それぞれの使命に応じて格差異別があり、異別の用途があるものである。

自ら（おのずから）分には限界があり、これを分限（ぶんげん）と言う。

【均衡矯正運動の法則】

一切の事物現象は、常に均衡矯正運動を維持している（ホメオスタシス）

一切の歪みや不均衡は絶えず矯正、是正されている。

それ故に、上下、左右の蛇行性移動の運動が起こる。

天敵、対流、抵抗等は、この現象の現れである。

【一切の習慣は歪みである】

習慣的慣習による力の蓄積、増幅、加速、偏向は歪みであり害になる。

習慣的形式は意義を失い歪みとなる。

【三対相竦の法則】

三者が互いに対立し、時に協力しなければならぬ協調関係にありながら、互いに牽制し合い、畏縮し合うことによって三者が均衡し、安定し合う。

物事の安定には最小数の支点は三点必要である。

三者が互いに協調し、安定成立するが、時にグー、チョキ、パーの三者のように力がはたらき合い、時に逆廻りの力のはたらき合いや牽制し合いによって均衡が保たれ、安定した運営がなされるのが自然の法則である。

国は行政、立法、司法の三権分立により安定した運営がなされる。

植物は果里、窒素、燐素の三要素を一定割合で取り成長する。

企業は経営、物の物産は資本家（経営者）、労働者（生産担当者）と消費者（受益者）の三者により成り立つ。

【新陳代謝】

一切の事物、現象は、永続するために絶えず、古い老朽化したものは、自然消滅し、新しいものがこれに代わって、活動の息吹きを続けている。

常に若さを保つために、老化現象を防ぐ運動を続けている。

これが新陳代謝である。

そして、存続の使命の終わったもの、存続の価値を失ったもの、存続に堪えないもの、次の使命に移行するもの等の不必要なものは、自然淘汰され、自然に還元されている。

【本能】

本能とは、それぞれの分に応じて、存在、生存、存続に必要な能力を生まれながらに与えられている。

即ち、天賦の能力である。

本能の内関連する一部を述記すると、

(1) 自衛本能

恐怖、逃走、拒否、嫌悪、屈従、防御、憤怒、闘争、保護保全、獲得貯蔵、忘却、歩行運動、群居団結、相互扶助、衛生維持等の感情や行動。

(2) 占有本能

自己の保全や生活のためにする意思で、物を所持、確保、取得せんとする感情、行動。

(3) 反復習性本能

条件反射による習性能力は、他の本能との複合性によるものである。

(4) 競争本能

出、伸、勝、高等を求める、生命、知性、体格、体質等の上に於ける欲求であり、過度のものは歪みとなる。

【求心運動と安定】

一切の事物、現象は、常に一点を求めて周辺運動をなす。

求心運動の至極は静である。

社会でも、政治も、企業も、団体も、皆一点の中心を求めて運動しており、国家や企業や団体の代表者、首長は、あくまで仮の中心である。

これはコマをまわすことと同じである。

コマは、仮の中心の心棒を中心にして回るが、中心の心棒も或る一点を中心
に回る。

この或る一点が真の中心である。

この点の中心に人間が忠誠を誓い行動すれば、社会は安定し、平穩無事なのである。

中心を求める向心力、即ち忠誠心が弱まると分離する。

分離しても、また必ず次の一点を求めて求心運動を維持する。

静は、動の、運動の極地であり、決して停止、休止ではない。

歪みが発生すれば、決して向心力、忠誠心は成長する物ではない。

その時は分離力の方が長養するものである。